

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4372500670
法人名	社会福祉法人 熊本菊寿会
事業所名	グループホーム 大和
訪問調査日	平成 21 年 1 月 9 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPO くまもと

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4372500670
法人名	社会福祉法人 熊本菊寿会
事業所名	グループホーム 大和
所在地	鹿本郡植木町木留336-2 (電話) 096-275-1384

評価機関名	特定非活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番15		
訪問調査日	平成21年1月9日	評価確定日	平成21年1月23日

【情報提供票より】(20年12月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 13 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8.4 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,416 円	その他の経費(月額)	12,166 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4)利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	0 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	谷口医院(内科)・ピネル記念病院(精神科)・小佐井歯科(歯科)
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームからは季節の変化や、電車の往来が感じ取られ、近隣にはスーパーや美容院など気軽に出かけることができ、立地条件に恵まれた住宅街の中に違和感なく存在している。理念の見直しを毎年行ない、理念を基に入居者の個性を尊重し、家族との信頼関係を大切にし、その人らしい笑顔のある家庭的な生活を送れるよう常に全職員で模索・学習しながら支援しており、安心した明るい生活が送られている。今後は推進会議等を通して、地域密着サービス事業所としての地域との連携構築への取り組みが期待される。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念については職員間で共有し統一したケアが出来るように、毎年見直している。成年後見制度・高齢者虐待防止法等についての勉強会を開催し、知識を深めるよう取り組んでいる。「看取りケア」に関して文書化し家族等への説明、了承を得るための工夫に取り組んでおり、今後の成果が期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は自らの振り返りの機会として捉え、全職員で真摯に取り組んでいる。評価の内容や結果を見直し、改善すべき点の優先順位を話し合い、改善計画をたて実施していく予定である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	委員の方には、事前に議案・資料を提出することで、会議の進行がスムーズに出来るようにしている。ホームの近況報告、外部評価等について報告し、委員からの意見や質問について討議している。前回は「看取り」についてのホームの方針やケアの課程経過を議題とし、参加者から評価をいただいた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年3回の家族会開催や、毎月お便りでの近況報告を行っている。面会時や推進会議参加時には意見や要望を出し易い雰囲気作りに努めているものの、意見・要望までは出ていないのが現状である。今後は手紙やホーム便りの内容を検討し、サービスの質の向上に反映できる連携協力の体制づくりが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣への散歩や買い物の際に挨拶を欠かさず、玄関はオープンに自由に入りやすい雰囲気作りをしているものの、地域の方々との連携は停滞気味で、思案されているようである。運営推進会議委員の人選の再考や、議題選定等を吟味してホームや認知症への理解を啓発し、地域の一員としての役割を担うことも期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で検討し、地域との関係を構築し、安心して暮らせることを支援することを盛り込んだ独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務遂行中や会議で理念に沿った介護ができているか常に職員間で振り返っている。理念は目につくところへ掲げ、入居時や訪問者に説明している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方とは、散歩や外出時に挨拶を交わしている。地域の保育園の運動会に出かけている。近所のスーパーや訪問美容を利用し交流に努めている。	○	地域の一員として活動できる様に推進会議等において常に働きかけを継続されることが望まれます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義と目的は全員が周知しており、今回も全員で取り組んだ。特に自己評価はケアの振り返りとして捉え、評価結果については全員で検討・改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で、ホームの近況報告や自己評価・外部評価結果等について報告している。その後メンバーからの意見や質問について討議し、サービス向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの状況報告等を窓口訪問の際に行っているものの、連携までに至っていない。	○	普段の窓口訪問や運営推進会議等の行政との連携を図る働きかけの継続が望まれます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の他、毎月近況報告を手紙で郵送している。その際に金銭報告や会議の報告なども同封している。体調変化等の際には管理者・看護師により随時連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会開催(年3回)時には意見や要望を出し易い雰囲気作りに努めているものの、出ないのが現状である。当ホームのサービス向上へつながる事を再度説明し、理解してしてもらえるように努める計画である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者・家族への職員の異動のダメージを考慮し極力行わないようにしている。入職時には入念な引継ぎや研修を実施し、入居者・家族に説明している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回勉強会を開催している。職員の職責に応じた外部研修に参加している。外部研修参加後には報告書を提出し、勉強会の際に共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのブロック会に参加し、情報交換や研修を行っている。交換研修を取り入れ、交流やホームの見直し、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族や本人に訪問してもらい、ホームの雰囲気を感じてもらおうとしている。入居後は一人の職員が主にケアにあたり常に寄り添い不安感を与えない関係を構築し、徐々に他の職員との馴染みの関係づくりが出来るように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中で支援する側、される側と立場を考慮せず、常に人生の先輩として接し、互いに学ぶ関係であるように支援している。入居前の得意だったことなどを引き出し、支え合う関係作りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族からの情報や日常生活の言動や表情から、本人の思いや意向の把握に努め、その人らしい生活を送れるかを常に考えケアし、記録するようにしている。	○	寝たきりの入居者に対しての意向や思いの把握は困難なようですが、家族や表情等様々な角度の情報でケアに努められることに期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意見・要望を把握して計画作成担当者が介護計画(暫定)を作成し、短期間実行し、職員の意見を取り入れて計画を完成させている。計画は家族・入居者に説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価・見直しを行なっている。心身の状況や状態に変化があればその都度話し合い、随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々変化する本人の心身の状況や家族の要望により、通院や買い物など、柔軟に対応し、常にその人らしい生活ができるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な方には週1回の訪問看護・訪問歯科の利用、月2回の協力医による往診など、看護師の配置もあり、身体の異常の早期発見や対応に努めている。以前からの医療機関への通院は家族の協力を基本としている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期の対応について説明している。重度化した場合に、再度、かかりつけ医・ホーム・家族・本人・関係者と話し合い、方針を共有するようにしている。看取りケア説明書を作成しており、今後活用する予定としている。	○	重度化へ向けての方針や、対応を関係者全員で共有するためにも定期的な話し合いや研修の開催が期待されま
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライドを損ねないような言葉かけや対応に努めている。記録等の取扱いにも配慮している。個人情報保護法に基づき管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの体調や希望、ペースに合わせた、無理のないその人らしい一日を送れるように支援している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が入居者の楽しみの一つと捉え、相談しながら献立を作成している。買い物も共に出かけ、調理も一緒に行い食に関しての意欲を高め、また役割の場面提供の場としている。職員も同じものを食べ、そこでの会話の中から情報を引き出すことも多い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日希望に応じて支援している、一人でゆっくり見守りや介助をしながら支援している。季節の菖蒲湯やゆず湯など実施し喜んでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中でできることは自分で行なってもらっている。調理の手伝い、洗濯物たたみ、掃除などの役割や、歌、編み物、音楽鑑賞、猫の世話などの楽しみごとがある。最近では、ぬり絵や学習療法も取り入れ楽しみにされている入居者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出かけている。車椅子の方も外気浴を兼ねて庭の草花を見たり、季節の変化を体感できるように支援している。リフト車購入により定期的に外食や花を見に行くなど外出の機会が増えてきている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけず、オープンにしている。帰宅願望の入居者に対してはさりげない声かけ後、同行している。身体拘束に関しては勉強会などで学習し理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎日設備点検と、入居者の所在確認をしている。避難路や避難方法について話し合っている。年1回応急手当の訓練を実施し、マニュアルを作成している。	○	いざという時に地域の協力が得られるように、推進会議や普段の挨拶等の継続が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事の摂取量をチェックしている。水分に関しては必要量を摂取してもらうように工夫している。カロリーや栄養バランスについての勉強会や同法人の栄養士に指導を頂いている。各入居者の嚥下能力に応じた食事形態で提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物周囲は花壇に花が植えられ、安全性を考慮して段差を解消してある。玄関から内部の装飾も季節感を大事にし落ち着いた飾り付けが施されている。廊下や玄関、リビングには一人になれる場所の確保がしてある。換気や臭気にも配慮がしてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に応じた居室作りの支援がしてある。家族の協力のもと、馴染みの生活用品が持ち込まれている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 大和
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県鹿本郡植木町木留字鬼塚336-2
記入者名 (管理者)	米村 聡子
記入日	平成 19 年 12 月 18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>これまでの理念は、地域との繋がりという点が入ってなかったため、スタッフ全員でもう一度見直しを行った。</p>	○	ただ理念でうたっただけにならないように、地域との関係を作り、地域で安心して暮らせるように支援していきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>スタッフ全員で話し合い作り上げた理念だが、ミーティングの時など管理者からの話の中で取り上げている。</p>	○	ミーティングの時だけでなく、自分たちのケアの振り返る時に、理念に沿っているかを確認するようにしているが、まだまだ不十分である。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>便りを配るだけでなく、町内会への加入を何度かお願いしているが、断られたこともあり、グループホームを理解してもらえず、係わりが希薄である。</p>	○	便りの発行だけでなく、パンフレットを配るなどし、少しずつでもグループホームを理解してもらえよう努力したい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の方とは、買い物や散歩時の挨拶など交わしている。また、子供たちがグループホームの敷地で遊んだりする時には、入居者と共に声を掛けている。</p>	○	町内会には入れないが、近隣の方とは積極的に関わって行きグループホームを理解してもらえようしたい。グループホームは特別な場所ではないことを伝えていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>前述の通り、なかなか地域に溶け込めていない。近くに同法人の保育園があるので、そこの行事などには参加している。</p>	○	参加できる方は、積極的に出掛け関わりを増やし、地域の一員として活動できるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会の方には、高齢者のケアや認知症のケアなどの相談は、いつでも受けることを伝えている。また、便りの中でも少しずつ認知症のことについて記事を載せたりしている。	○	少しずつの積み上げで町内の方にわかっていただけるように関わりを増やして行きたい。医療や福祉の専門のスタッフがいるので事業所の力を地域に役立てていけるようにする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングにてサービス評価についての意義などを勉強し、自己評価もスタッフ全員で取り組んでいる。特にこの自己評価は、自分達のケアの振り返りが出来てより意味深いものになっている。	○	前回の自己評価や評価結果を見直し、改善すべき点がきちんと出来ているか確認し、改善計画を立てて行っていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の議題には、サービスの内容などの話や利用者、利用者家族、地域の方、役場からの意見や質問を受けて、サービスの向上に努めている。	○	自己評価をすぐに会議で話し合い、この評価を一回限りの議題にするのではなく、改善していく上での確認の場にしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	窓口に行った時など、入居者の状況を簡単に伝えたり、グループホームの状況を話したりしているが、まだまだ係わりは少ない。	○	連携を深めるために、どうすれば良いかを事業所側だけでなく、役場の方とも運営会議の時などに議題としてあげ、取り組んで行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要なケースには、管理者が対応している。スタッフ全員が制度の理解が出来ているとはいえない。	○	勉強会の内容に、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業について取り入れて、スタッフの理解を深め、利用者の支援に役立てたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、ミーティングで学んだ。また日頃から身体の虐待はもちろん、言葉での虐待がないか気を付けている。	○	勉強会の内容に、もっと高齢者虐待防止関連法も取り入れ理解を深めたい。また、虐待を発見した時のマニュアル(対応について)を作成するという目標が達成されていないので、ぜひ作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>見学時や入居時に契約について時間を取って説明している。契約書の内容だけでなく、理念やケアの考え方についても説明している。</p>	<p>○</p> <p>重度化した場合の考え方を口頭で説明しているが、文章にしてもう少しわかりやすくした。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の様子から思いを汲み取る努力をしている。しかし、利用者や家族が、外部者や第三者委員に表せる機会が少ない。</p>	<p>○</p> <p>家族会などに第三者委員も招待し、スタッフが同席せず話し合いの場を作るようにする。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一回は、スタッフが利用者の個々の暮らしぶりを手紙に書いて家族に送っている。その際写真も送るようにしている。</p>	<p>○</p> <p>面会に来られたときには必ず心身の状況をお話するようにしている。体調変化のあった方は看護師又は管理者が説明をするようにしている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会で家族同士で話してもらったりし、その中で意見や苦情があれば出してもらっている。</p>	<p>○</p> <p>面会時、意見や要望を尋ねているが、なかなか出していない。「文句」ではなく、グループホームの質を高めていくための大切な情報であるということを、今一度説明し理解してもらおう。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや勉強会では、管理者だけでなくスタッフ全員が意見を出せるようにしている。すべてにおいて管理者の独断にならないように気をつけている。意見が出たときには、反対意見を言うのではなく話し合って決定している。</p>	<p>○</p> <p>ミーティングなどでは、管理者が席を外したりして、スタッフがより意見を出しやすいようにする。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>主となるスタッフを中心として勤務を組むことで、状況に応じて柔軟に適切に判断が出来るようにしている。</p>	<p>○</p> <p>管理者や看護師はいつでも連絡が取れるようにしている。状況に応じて休みを変更して対応している。休みでも緊急の場合は、すぐに対応している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合</p>	<p>入居者や家族にとって、スタッフが代わるのは不安になると考え、異動は行っていない。また、新しいスタッフが入職した時には引継ぎや研修を行ったうえ、入居者や家族にはきち</p>	<p>○</p> <p>馴染みの関係が崩れることが利用者のダメージになることを十分に理解しておく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少なくとも月一回、全スタッフでの勉強会を行っている。また、外部の研修に参加した場合は、報告書を提出し、勉強会のときに報告してもらっている。	○ もっと外部の研修にスタッフを参加させていきたい。また、スタッフの知識のレベルも違うので、段階をおった研修も行って行きたい。知識だけでなく、理念の理解や、意識の面での教育をどう行っていくのが難しい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとのスタッフの交換研修を取り入れ、より質の高いグループホーム作りを目指している。	○ もっと交換研修の機会を増やして、勉強をしたり交流を図りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	他のグループホームのスタッフとの交流や、親睦の機会を通してストレスが溜まらないように気分転換を図ったりしている。また、休憩時間の確保などスタッフの意見を取り入れている。	○ 管理者がスタッフの意見を聴くだけでなく、主となるスタッフに間に入ってもらったりして、よりストレスや悩みを把握するようにしたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得を目指しているスタッフには、勤務の調整など支援を行っている。また、健康診断を年2回行い、健康状態を把握している。	○ 就業規則がありそれをきちんと守っている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の不安を取り除くために、日々表情や行動を見て生活状況を理解し、要所要所での適切な声掛けを行っている。また、よく話を聴いたりしている。	○ スタッフ側からの声掛けを行っていくだけでなく、利用者側から、自らの意見を安心して言うことのできる関係づくりを行っていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族がグループホーム訪問時には、スタッフは家族からの相談や不安等をいつでも聞けるような勤務体制をとっている。また、定期的に行っている運営会議でも、家族と利用者も参加してもらって意見を聴ける場になっている。	○ 家族や入居者とある程度の関係は出来ているが、もっとスタッフに遠慮なく何でも言える関係作りを行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その本人・家族の意見について早い時期にスタッフ間でのミーティング等での話し合いを行い、その時最善と思われる対応を取っている。また、外部からの相談に関しては、当グループホームで対処できない事は、必要に応じて地域の他のサービス機関を紹介したり、連絡したりしている。	○	スタッフ間での話し合いの中で出た意見が、複数あるときには本人や家族に選んでもらったらか。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に来所してもらい、本人や家族にグループホームの雰囲気を感じてもらっているものの、利用者本人が徐々に馴染めるような直接的な努力は行えていない。	○	本人に入所前の段階で、すでに入所されている他利用者との交流(簡単な挨拶等)を行ってみる。入所して、何人ものスタッフが交代で対応するのではなく、なるべく一人のスタッフが対応することにより、安心感を持ってもらう、また常に寄り添い不安感を与えないようにしていくことが必要。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という考えを持たず教えたり、教えてもらったりして過ごしている。入所前の得意だったことや昔の知識を人生の先輩として教えてもらっている。	○	今も、得意だった事など実際に行ってもらっているが、もっとその人を理解して思いや喜びを汲んで自分をどんどん出せるようにしたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	まず、家族の思いを汲み取る努力をし、家族の気持ちにも寄り添えるようにしている。入所者の様子を細かく伝えたり、家族会などの行事で交流を図り信頼関係を築いている。	○	グループホームに任せっきりになっているような所もあるので、家族と共に利用者を支えていくようにする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	スタッフ間の定期的なミーティングなどで、これまでに起こってきた様々な背景を理解し合っている。また、それらを踏まえ行事を通して利用者との関係を維持している。	○	上記と同じで家族と本人の絆を大切にしたい支援の方法を考えていく。年間行事だけでなく、もっと身近に利用者との家族の交流を図る。よりいっそう本人、家族の思いを汲み取り、よい関係が築いていけるような方法を考えていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物などで顔馴染みの方にあたりするときは、ゆっくりとその方との会話を楽しんでもらったりしている。その時、利用者の話だけでは分からなかったことなどがわかることが多い。また、馴染みの場所に行くときと落ち着くといわれ喜ばれるので積極的に行くようにしている。	○	電話をいただいた知人の方などは、スタッフが時に間に入ったりし、連絡先を尋ねて年賀状や暑中見舞いなどを出すように利用者に働きかけていき、関係を継続できるように支援する。行事など差し支えなければ行事などにも参加してもらったらか。(本人の希望があれば)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合え	利用者同士でいい関係の時にはあえて間に入らないようにし、お互い支えあったり協力し合ったりされることをサポートしている。ただ、日々その時々で利用者の感情は変化するので	○	利用者の中でも世話役のような方がいらっしゃるが、その方が無理をされないように気をつける。また、間にスタッフが入ることにより利用者同士の関係がうまく作れるようにす

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	以前入居されていた方のご家族は、たまに遊びに来られる事がある(利用者はお亡くなりになられた)。グループホームに来ると安心しますと言って下さるのでスタッフとしても嬉しいことである。また、入院されて契約が切れた方の所にも、顔を見せたり病院と連絡を取ったりしていた。	○	退去される方がいらっしゃれば、本人や家族が孤独になったりされないように出来る限りのフォローをしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いの把握が困難な方だけでなく、アセスメントの中の一部はスタッフ全員がそれぞれ記入し、思いや意向の把握に努めている。	○	アセスメント時だけでなく普段からスタッフ全員が、その人をより深く理解できるように関心を持ってケアにあたる。寝たきりの方の暮らし方というのが今の私たちの課題で、どうすればよりその人らしく過ごしていただけるか日々考えている。ご家族と共に深く考えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話や家族の面会のときなど話を伺うようにしている。ただ、若いころの話などは、子供たちではわからないことがあったりする。また、あまり話しながらない家族もあり、プライバシーに触れないようにするとあまり情報をいただけないこともある。	○	家族にその人の生きてきた背景や生活歴が大切なことを伝え、これまでの暮らしをなるべく続けられるようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人を点で見るのではなく、線で見るように心掛けている。一人のスタッフでは見ていなかったり、見落とししたりするのでスタッフ全員で把握することを心掛けている。それが線として繋がっている。	○	その人に関わったり、よく見ることで、出来ることや出来ないことを判断していく。心身の状況によっては出来ることが出来ず、自信を失うことに繋がるので、思い込みによって支援をしないように気をつける。また、状況の把握に努めるだけでなく、その人の持つ力をどのように引き出していかをスタッフ全員で話し合っていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ全員で話し合い計画を立てている。前述のとおり大事なアセスメントは全員に書いてもらい計画作成者が気付かなかった、その人の思いを大切にしている。	○	家族からなかなか意見を出していただけないので、どうすればもっと家族の意向も踏まえられるのかを考えていきたい。また、地域とのつながりが希薄なのでそこを取り入れて、地域の中での暮らしと言う点を大切にしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の心身の状況の変化に応じてプランの変更を行っている。	○	急なプランの変更には家族の意見が反映されないことが多いので、その場合も本人はもちろん家族の意見を伺って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録を記入することによって情報の共有を図ったり、計画の見直しに役立ったり、ケアの振り返りに利用している。身体状況によって記録の種類や様式を変えている。(排泄・食事・水分量など)	○	記録の方法の勉強会を行っているがなかなか適切な記録を残すのが難しい、そのためスタッフも書くのが大変という意見がでる。もっと、記録の意味・意義について勉強の機会をもつ。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々変化する利用者の心身の状況に臨機応変に対応している。	○	グループホームの利用者がより安心して暮らし続けられるように、介護保険サービスにとどまらず、独自のサービスを提供していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営会議には必ず民生委員さんが出席してくださっているので、意見交換を行っていると共に、家族会にも参加を呼びかけて交流を図っている。その時は、利用者や家族と民生委員さんの関係作りも出来ている。	○	もう少し地域の方々のつながりを開拓していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所のケアマネジャーとは、連絡を取っている。特に入居時の担当ケアマネジャーは連絡を密に取っている。また、植木町のオムツ給付サービスなど必要な方には、利用させてもらっている。	○	地域のサービスを知り、利用者の支援に役立てて行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	あまり地域包括支援センターとの連携は取れていない。	○	権利擁護の問題など実際起こっていないが、これからのために連携を取り利用者を地域で支える方策としていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回の訪問看護(医療)、月一回の往診を基本とし、異常の早期発見、利用者の状況により柔軟な対応が出来ている。	○	内科、歯科ばかりでなく、老人特有の疾患の多い、皮膚科、眼科、整形外科などの、かかりつけ医の確保、往診など受けることが出来るような体制作りを行っていく。特に、歯科などは訪問診療などを検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今後も今まで同様に関係を構築していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>当ホームの看護師を中心として訪問看護やかかりつけ医との関係は良好である。これからもそれを損ねることなく強化していく。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>入院のダメージを最小に抑えるために、情報を共有して可能な限りグループホームでの生活を継続できるように支援していく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>説明時口頭だけでなく、わかりやすく文章にして説明を行うようにする。看取りに関しての文章を作成した。また、家族を含めた関係者全員の方針の統一を図っていく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>チームケアが重要なので、もう一度話し合いを行い本人や家族の不安はもちろんの事、スタッフの不安な気持ちの解消にも努める。ミーティングなどで、ターミナル期の身体状況・精神状況、家族の気持ちなど理解できるように話し合い、勉強していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>プライバシーの問題があるので、家族に理解をしていただき情報提供を認めていただく努力をする。普段から情報はまとめたり、重要なものをチェックしておく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドを傷つけないように言葉を選んだり、その時々で相手の立場に立った対応や声掛けを心掛けている。スタッフは感情的にならず穏やかに対応している。記録についても本人がいないところで書いたり、引継ぎも行っている。記録の書き方は勉強し、介護者の主観にならないように客観的に書くようにしている。	○ その時々に応じた声かけ・対応など、自分たちのケアの質を向上させていくために、振り返りの時間を作る。個人情報保護法に対応した約束を作っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その人その人にあった言葉掛けを行ったり、利用者に合わせて選択肢を多数用意したりすることで、少しでも自分で決めてもらったりしている。また、意思表示が難しい利用者も、表情や反応を読み取るように努力している。	○ 好きなこと・嫌いなことなど常に相手を知ろうとする姿勢を忘れず新たな発見はスタッフ間で共有し、今よりも利用者が思いや意向希望を安心して出せるよう支援に努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、本人の意思や体調を大切にして無理のない、その人が主人公の一日を過ごしてもらっている。	○ 時にスタッフ中心になることがあるので気をつけたい。ルーチンワークの大切だがそればかりに囚われないようにする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは本人に選んでもらっている。自分で筆筒から出せない方は、スタッフが何枚かの中から選んで貰う様になっている。化粧をする人には、化粧品の購入など支援している。	○ 服装の乱れがあるときには、さりげなく利用者を傷つけないように直すようにする。スタッフの好みで支援をしないようにする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と一緒に相談しながら決めている。中々意見が出ないときには大まかな内容から決めていくようにしている。調理も出来ることをしてもらうことで食に関する意欲を高めている。時には、したくないといわれることもあるが、その時はスタッフで作り、味見などで参加してもらう。	○ 利用者の出番のなるべく多い献立を立てたり、作り方に工夫をして出来るだけ力を発揮できる場面にする。入居者が重度化している中で、少しでも一人一人の役割を見つけ一緒に何か出来ることを行っていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しむよう支援している	飲酒の習慣がある方には晩酌を楽しんでもらっている。コーヒーや紅茶なども好みに応じて用意している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄のパターンをスタッフが把握し、早めの声かけやさりげない誘導で失敗を少なくしている。失敗された場合でも本人が傷つかないようにまた、周囲に気付かれないように配慮している。	○	オムツを使用している利用者も定期的に、見直しを行い外すことが出来ないか検討を行っていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入ってもらっている。時間も一人で(見守りや介助にスタッフ一人ついて)ゆっくりと入ってもらっている。	○	五月の菖蒲湯、十二月のゆず湯など行っているが、時々利用者に好みを尋ねて入浴剤を使用し楽しんでもらってはどうか。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲れが見られるような時は休息できるように支援している。一日の生活リズムを作り、夕方からゆったりと穏やかに過ごすことによって夜間安眠できている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で利用者に来ることは自分で行ってもらっている。また、好きな音楽をCDで聴いたり、スタッフ手作りの歌詞カードを見て歌われたりと楽しんでおられる。また、役割や手伝いなど心からの感謝の気持ちを伝えている。	○	中々楽しみごとや役割気晴らしが難しい利用者が何名かおられるので、関わりの中でその人の楽しみごとなどを見つけていくようにする。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中にはお金の話をするだけで不穏・興奮につながる方が何名いらっしゃるので、お金を所持している方は少ない。しかし、もっておられる方も使おうとはされない。	○	外食時などお金を手渡し、小額の支払いを自分でしてもらうことから始めてみる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物などに出掛けている。車椅子などの方も花壇の花を眺めたり、季節感や外の空気を味わってもらっている。車椅子対応車を購入できたので、個別に外出を行っている。	○	外食や買い物などの機会をもっと増やしていく。最近は寒かったり、風邪が流行ったりで外出の機会が減っているので、寒い時期にも出掛けられるところを探す。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに	機会を定期的に作り、外食・温泉旅行など個別に出掛けている。	○	もっと家族の協力を得て、外出時に一緒に参加を呼びかけるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望がある時に電話をしたり、手紙を出したりしている。電話がかかってきた時など、静かな環境でゆっくりと話が出来るように支援している。	○	今は利用者からの申し出で手紙の支援をしているが、年賀状や暑中見舞いなど書くことはたかさかける。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の大切な方がいらっしゃったという気持ちで、お茶やコーヒーなど出している。利用者の家に遊びに来たという気持ちになっていただけるよう、居心地の良い雰囲気をつくる工夫をしている。スタッフが慌しくしたりせず、笑顔で迎えるようにしている。	○	訪問者のスペースがないので、ゆっくり出来るような工夫をもっとする。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。徘徊も無理に止めるのではなく、話を聴いたりお茶を飲んでくつろいでもらったりして落ち着いていただく。	○	拘束に関する勉強会を行い、拘束の影響を理解しているがまだまだ、気付かないうちにスピーチロックしているときがある。身体拘束だけでなく、薬や言葉による拘束にも気をつける。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は開放しているので、出入りは自由に出来る。もちろん居室にも鍵は掛けていない。利用者が外に出て行こうとされるときには、さりげなく声を掛けたり一緒についている。	○	利用者が外に行かれる事を見落とさないように、スタッフは細心の注意を払う必要がある。他のスタッフがいるだろうから大丈夫という考えが無断外出を招くので気をつける。チャイムに頼らない様にする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊があるからといっていつも呼び止めたり、傍に引っ付いているのではなく、さりげなく利用者「監視されている」と思われないように気をつけている。いつも、所在だけでなく心身の状況にも気を配り事故を未然に防ぐよう心掛けている。	○	夜間は全体が見渡せるところにいて記録などを行っている。また、日中もよりいっそう利用者の状況に気を配るようにする。あえて、申し送りの時間を設けていないので、何度でもその時に応じたケアの方法を修正できる。その利点を活かしてベストと思われるケアを提供していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁などは使用したらすぐに片付けるようにしているが、他のものは普通に置いている。利用者の興奮などの状況に応じて、片付けるようにしている。	○	利用者の把握をしっかりと行って危険物の検討を全スタッフで行っておく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況を把握しそれを見守りに活かしている。転倒などの事故が起こった場合には、事故報告書の作成と共に、家族へきちんと説明・報告を行っている。	○	利用者が今どこで何をされているかをしっかり把握して事故防止に努める。スタッフは中々ヒヤリハット報告書を書きたがらないが、ヒヤリハットこそ事故防止のツールであることを、全スタッフが認識する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年一回の応急手当の訓練を受けるようにしている。また、緊急時対応や応急手当のマニュアルを作っており、いつでも見られる場所に置いている。	○	緊急時落ち着いて対応できるように常に学びの機会を持ち、スタッフ同士で研鑽し、技術を高める。また、家族やスタッフ同士が密な連絡を取り利用者の心身状況を掴んでおく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎日、消火器・避難路・消防設備・懐中電灯のチェックをすると共に、利用者の居室配置図や人数をチェックしている。スタッフはミーティングなどの機会に避難路や避難方法を話し合っている。	○	地域との連携が課題で緊急時の話し合いが出来ていない。便りなどで呼びかけていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時など利用者の状況を必ず話しており理解してもらうように働きかけている。特に状況変化が大きいときには、管理者・看護師同席のもと話し合いをしている。また、少しの変化を見逃さず電話などでの報告も実施している。	○	曖昧なことは決して家族には言わないようにし、状況など率直に話をするようにしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	何気ない訴えに、敏感に対応できるよう日頃の健康状態の把握をし、気付いたことは看護師に報告相談し、その先につないでいる。	○	状況を報告相談すると共に記録し、医療等につなげている。この評価の機会に、もう一度ケースを見直し、対応に遅れが無いチェックしてみているが、毎年でなく毎回行うようにしたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より、一人一人の薬についての効果、副作用の提示をし内容変更変更時は注意(様子を見ておく)を呼びかけ、変化の確認を行っている。薬の本を利用しながら、利用者の服用しておられる薬の理解をより深めている。	○	特に薬の変更があったときには、記録を詳細にとり医療につないだりする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材を利用したり、水分摂取を働きかけている。また、一人一人の排便のサイクルを理解し、本人の負担にならないように働きかけている。	○	体を動かしたり、乳製品をもっと取り入れたりして、便秘の予防に取り組んでみる。体操を個別に行っているが、便秘予防・解消に良い体操を取り入れる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援	朝、夕食後には、一人一人に応じた声かけ・見守り・直接支援を行っている。また、口腔ケアの重要性をスタッフが理解し、取り組んでいる。	○	長年のその人の習慣を大切にしながら、利用者にも口腔ケアの大切さをさりげなく伝え、支援を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなかなか取ってくれない人に対しては、一回に取る最低量をスタッフで決め(湯飲みに二杯など)確実に飲んでもらっている。また、好みの飲み物を用意し出来るだけ飲んでもらっている。食事内容も記録を残している。(感想を含めて)	○	カロリーや栄養のバランスについての勉強をスタッフで行ったり、同法人の栄養士に研修をしてもらったりして、利用者の献立作りに役立てる。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	起こりうる感染症に対して(インフルエンザ・ノロウイルス・肝炎など)の予防や対応マニュアルを新たに看護師が中心になって作成した。またそれを実行している。	○	家族の了承を得、体調を考慮したうえで全利用者と全スタッフはインフルエンザの予防接種を受けている。また季節に応じた対策も採っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫や保管庫は賞味期限や消費期限に気をつけて、清掃など行っている。布巾・まな板・シンク・ガスレンジなど、毎日清掃・消毒をしている。	○	なべやフライパンなどの調理用具の入れ替えを行ったが、定期的な入れ替えなどを検討する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はいつも開放し、ベンチを置いたり花を植えたりして親しみやすいようにしている。昨年の課題であった側溝の段差など解消した。	○	駐車場も特に塀や門がなく入りやすくなっている。その分入居者の出入りが自由なので、無断外出などに気をつけていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設や保育園や幼稚園のような装飾にならないように気をつけながら、絵や飾りを置いている。季節に応じた花や飾り付けを行っている。	○	家庭的な雰囲気を損なわないようにし、飾りだけでなくスタッフの声やスリッパの音なども居心地につながることを理解しておく。引き続きスタッフがお互いに注意し合えるようにしたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、テーブルなどを置き個々のくつろぎのスペースを確保している。それぞれ思い思いの場所で過ごしておられる。	○	部屋で一人きりになると不安になられる方も、人の気配を感じつつ一人で落ち着ける空間作りを目指す。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらい、安心して過ごしてもらっている。また、写真や仏壇なども持ってきておられる方がいる。新しい家具を持ってこられた方には、スタッフがその人との関わりの中で見つけた好みに応じた物でその人らしさを出している。	○	リラックスして過ごせるように、本人に合わせた椅子・テーブルを家族と相談しながら設置している。少しずつ、居室にも季節感を取り入れるようにする。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は小まめに行っている。温度計を共用の場所・リビング・食堂・廊下や全介助の方の居室などに設置し温度の変化にも気をつけて対応している。風邪の流行する時期など特に、朝夕の換気を徹底している。	○	夏場はヨシズを使用して日差しの軽減を図っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは暖簾を掛けてわかりやすいようにしている。必要などころには(トイレ・脱衣所・浴槽の出入り口)手すりを付けている。また、夜間はトイレの灯りを一晩中点けてわかりやすくすると共に事故防止につなげている。	○	廊下には手すりはないが、整理ダンスや本棚テーブルを置き、手すり代わりにしてもらったり、椅子を置いて休息のスペースにもしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には、利用者の目線に合わせた高さに表札をスタッフが作って掛けている。トイレと風呂場には暖簾を掛けてわかりやすくしている。	○	非常警報機の赤いランプが混乱につながる方がおられるので目立たないようにしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の内外にベンチを設置し靴を履いたりしやすいようにしている。縁側には洗濯物干し場も作っている。花壇にはいつでも花を植えて見られるようにしている。	○	中庭にもベンチを置いてお茶を飲んだり、くつろげるスペースを確保し、外に出る機会を増やして行きたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・理念を基に家庭的な雰囲気、入居者とスタッフが共に笑顔のある、明るく楽しい生活を送っている。入居者の個性を尊重し、家族とのつながりを大切にしながら、個々に合わせたク